

〔三代實錄清三和〕貞觀元年十二月廿二日癸卯、從四位上行攝津守滋野朝臣貞雄卒、略○ 身長六尺餘、雅有儀貌、

〔三代實錄清四和〕貞觀二年十月廿九日乙巳、正三位行中納言橘朝臣岑繼薨、略○ 岑繼、身長六尺餘、腰圍差大、略○ 下

〔三代實錄清十二和〕貞觀八年五月十九日壬戌、下知相模、武藏、上總、下總、常陸等國、選進長人六尺三寸以上者、

〔三代實錄清十三和〕貞觀八年九月廿二日甲子、是日大納言伴宿禰善男、略○ 五人坐燒、應天門當斬、詔降死一等、並處之遠流、略○ 中 相坐配流者八人、略○ 中 從五位上行肥後守紀朝臣夏井配土佐國、略○ 中 夏井

眉目疎朗、身長六尺三寸、性甚溫仁、雅有才思、

〔三代實錄清十四和〕貞觀九年五月十九日丁巳、大納言正三位平朝臣高棟薨、略○ 中 高棟長六尺、美鬚髯、

〔陸奥話記〕貞任拔劔、斬官軍、官軍以鋒刺之、載於大楯、六人舁之、置將軍賴源義之前、其長六尺有餘、腰圍七尺四寸、容貌魁偉、皮膚肥白也、將軍責罪、貞任一面死矣、

〔足薪翁之記一〕大女房

延寶の比、江州の産にて、およめといふいと大なる女を、見世物に出し、事あり、時の人その名をばいはずして、大女房といひけるとぞ、

〔用捨箱下〕大女房阿與米 附甫春

近年大女淀瀧とかいふを見世物に出し、が、昔も彼に似たる女あり、松會板年代記天和三年新彫延寶二年の條、江戸堺町に四ツになる子力持、石臼に錢四貫文のせ持あぐる、十一月近江國より、たけ七尺三寸ある大女名をおよめといふ、見世物に出すと見え、又續無名抄延寶八年惟中著上ノ卷に、近頃道頓堀に、略頭大甫春といふ者あり、顔色常體の如く、うつくしさ人にこえたり、其たけ一尺二寸

大女